

たまがわの風

平成25年4月8日
大阪府立たまがわ高等支援学校
校長室発
NO. 14

校長室からの情報発信を始めるにあたり、いろいろとネーミングを考えていましたが、校歌の2番の一節「♪たまがわの風にのせて伝えよう♪」から引用し「たまがわの風」としました。

平成25年度 学校経営計画

1 めざす学校像

☆知的障がいのある生徒が就労を通じた社会的自立を目指すチャレンジを支援する学校

☆個別の適性を正確に把握し、より適切で有効な支援を創造し進化する学校

たまがわ高等支援学校マネジメント3つの柱

○社会的責任（存在価値）

・学校は個人や社会に必要とされ存在し、個人や社会のニーズに応えるために存在する。

○マーケティング（顧客志向）

・2つの顧客（生徒と企業）のニーズを的確に把握し、効果的なマッチングをおこなう。

○イノベーション（継続的な改善・改革）

・時代とともに早いサイクルで変化する社会において、多様な生徒の適性と企業が求めているものを常に把握し、素早く柔軟に支援体制を進化させることができるシステム。

2 中期的目標

1. たまがわ高等支援学校の存在価値とその使命意識の浸透

(1)たまがわ高等支援学校の専門性の確立

支援教育の視点と職業教育のノウハウを融合させたキャリア教育の確立。（組織・チームとしての専門性）

(2)たまがわ高等支援学校の使命

顧客（生徒と企業）のニーズを的確に把握し、適切なマッチングをおこなう。

(3)たまがわ高等支援学校の社会的存在価値

本校の取り組み、実践が全ての障がいのある生徒のチャレンジを支援することにつながる。それが、インクルーシブ社会を作る一役を担うこととなる。

2. より適切で効果的なマッチングを基本とした指導體制の確立<顧客の創造>

(1)生徒の特性の把握を軸（個別の教育支援計画・個別の指導計画の充実と活用）として、個別の課題を引き出し、適性を広げ、伸ばすことによりキャリアアップをめざす。

(2)制度の変化や時代の変化を敏感にとらえ、企業のニーズに応える人材を育成し、より適切で効果的なマッチングを行う。

(3)双方（生徒のニーズと企業のニーズ）の満足感を醸成することにより、定着率を上げるとともに、実習先、雇用先の新規開拓の広がりにつなげる。

(4)たまがわ本校と4校の共生推進教室との進路指導の連携体制を構築する。

3. 時代とともに変化する生徒と企業のニーズに反応し柔軟に進化する集団

(1)本校が展開する教育（知的障がいのある生徒が就労を通じた社会的自立を目指す）のプロ集団として、社会の状況を把握し、常に最新の情報とニーズに対応できる機動力のある集団をめざす。

(2)開校以来構築してきた第1次システムを再検証し、5年先を見据えた第2次システムに機能アップさせる。

(3)引き続き、卒業生の80%以上が就労できる体制を常にイノベーションを繰り返しながら機能させる。

(4)進化に対応できる若手人材の育成を図る。

平成25年度重点事業

1. たまがわ高等支援学校のテーマパーク化

「ソーシャルスキル（就労のためのスキル）トレーニング」のために3学科6分野+2分野の（8つのテーマランド）が、それぞれに「テーマ」を設定し「空間設計」された場で運営される教育環境（参加体験型アトラクションとエンターテイメント）の再構築

現在作成中



完成しましたら、再度掲載します

2. 新学校運営組織の円滑な運用と柔軟な対応

- ①新しく設置された「総務部」と各分掌の積極的連携による校務運営の円滑化
※走らせながら点検整備を行い、場合によってはマイナーチェンジも柔軟に・・

- ②あらたに業務内容が整理された分掌・体制が刷新された分掌など過去にとらわれない（不易と流行を見間違えない）将来を見据えたシステムの再構築

3. 本年度開校する「とりかい高等支援学校」と同じ高等支援学校として情報を共有しながら連携を強化する。

- ①部活動等の交流を企画する。
・定期戦や文化交流のスタートとし今後開校される高等支援との交流の基礎を作る。

4. イノベーション委員会の継続設置

- ①平成24年度設置し活動を行ったイノベーション委員会を継続設置する。
- ②委員の構成は、運営会議に参加する者を除く全教職員の中から5名選出する。
- ③選出方法は、職員会議構成員の投票を持っておこなう。

重点事業は、年度途中であっても必要性を認める場合、随時追加するものとする。